

【常任委員会審査レポート】

各委員会に付託された議案等について、議会最終日に委員長が審査経過と結果を報告します。

総務文教常任委員会 岡田竜一 委員長

学びのマルシェ 一部教室を中学3年生までに拡充

議第1号平成29年度三条市一般会計予算では、ふるさと三条応援寄附金の返礼品の在り方について、基本的には制度には反対であるが、取り組みが取り組むほど一般財源が確保できることから今の方向性を持って取り組んで行きたいが、指摘事項も考慮し今後検討したいとのことでした。

また、ジャイアント馬場さんの名誉市民顕彰事業について、講演会などの実施時期は調整中。実業高校までの三条時代やプロ野球時代の思い出の品は、広報さんじょうを通じお借りし、展示したいとのことでした。

また、防災気象アドバイザーについて、気象予報経験のある方を出水期の6月から9月まで雇用し大雨警報時などの気象予測のほか、地域や小学校に対する防災に関する講座を実施してもらいたいとのことでした。

また、学びのマルシェの拡充について、ステップアップ教

室、プラスワン教室の対象学年を中学3年生までとし、第一中学校区に1カ所増設することとした。

議第15号三条市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正については、特別職報酬等審議会への議員定数等調査特別委員会における審査内容の伝え方について、定数削減後の報酬額は平成29年度の審議会で審議していただきたいと説明した。委員からは若い人が積極的に議員に立候補して職責を全うしてほしいので、引き上げてはとの意見があったとのことでした。



市民福祉常任委員会 笹川信子 委員長

図書館等複合施設建設に向けて旧三条小学校の解体に着手

議第1号平成29年度三条市一般会計予算では、県央医師会応急診療所について、加茂市長の「どの市町村も金を出していない」という議会答弁が報道されたが、実際は燕市、田上町、弥彦村および当市が補助金を支出しており、今後も加茂市に構成市町村への参加を強く要請していきたいとのことでした。

管理不全な空き家への対応について、背景には所有者等の資金難、相続等による権利関係の複雑化などの問題があり、法令上可能であっても行政代執行や土地の差し押さえを行うのは難しく、仮に行っても経費を回収できる見込みはないのが現状とのことでした。

図書館等複合施設建設予定地に建つ旧三条小学校校舎の

解体について、活用を予定している国の交付金の交付決定が夏頃になる見通しであり、その後工事請負契約締結の議決を経て着手する計画だが、外壁材に使用されているアスベストの処理に1年程度を要するとのことでした。

招致を目指す将棋の竜王戦について、第1局から第7局までのうち、結果にかかわらず開催される第4局までのいずれかを要望しており、要望どおりになれば10月か11月の開催が見込まれるとのことでした。



経済建設常任委員会 坂井良永 委員長

燕三条地域の特性を生かしパラリンピックに貢献

議第1号平成29年度三条市一般会計予算では、農業政策全般について、農業の企画部門が手薄ではあるが、光る農業者を育成し、それに続く人材も引き上げていきたい。三条産だからこそ価値があるものに目を向け、支援体制を構築していきたいとのことでした。

また、パラリンピアン用の用具開発について、燕三条地域が得意とする技術を生かせるところに優位性がある。現状としてはアイススレッジホッケーの用具に着手するとともにウィルチェアーラグビーの検討を進めており、何に取り組めるのか関係団体と調整していきたいとのことでした。

また、除雪機械の配備について、現状では除雪委託業者の状況を聞き取りながら次年度の計画を立てているが、降雪量

を想定し、市から民間事業者への機械貸与やリースなどの方法を組み合わせた効率的な除雪体制を検討したいとのことでした。

議第27号平成28年度三条市一般会計補正予算では、荒町ポンプ場の雨水ポンプ修繕工事について、請負業者の連絡調整ミスにより取り換え部品に不具合が生じているが、古い部品を再度使用することで取りあえず運転に支障はない。ただ、工期内に工事が完了しないことから違約金を請求するとのことでした。



屋根雪処理の落下防止策を講じて

問 屋根雪処理で毎年死傷者も出ている。具体的にアンカー設置などの補助をしようか。
答 市のHPにリンクを貼るなど注意喚起していく。



新潟県ホームページから



使用状況をみて必要に応じて対策を講ずる。

子どもの医療費助成、県最低に！

問 三条市と同一歩調を取ってきた長岡市も中学校卒業までの助成に踏み切った。三条市も子どもの人数で差別せず助成してはどうか。
答 子育て支援全般には予算を拡充している。経済的支援ではなく、複数年度にわたり持続的に効果が期待できる基盤整備をしていく。

住み続けられる三条というが、中山間地の生活は？

問 中山間地の暮らしを支える買い物、移動支援をどう考えるか。
答 極を維持する手段とし、移動販売は欠かすことはできないと考え、冬季のみ補助金を支給。お出かけパスも好評を得ている。

中山間地の農業問題について

問 集落存続の危機感もある中で平成29年度施政方針、農業政

策からは伝わらない市長の見解を伺う。

答 下田地域は耕作に不利な農地が多いと認識する。維持され続けたい景観は「三条の宝」と思う。今後中山間地農業を次世代に引き継ぐ必要がある。



耕作を待つ中山間地の水田

問 基盤整備も不十分であり農業用排水路また農道等困難である維持管理今後のインフラ整備を伺う。
答 国でも支援、三条市独自の施策を進める中で国県の補助金等を有効活用し活性化を図る。また中山間地農業は重要政策課題として取り組む。

バイオマス利活用発電について

問 里山、林業再生を願う中でチップ材等安定供給する連携およびその体制について伺う。
答 利活用推進協議会で事業者も含め意見交換を行っている。

問 大手商社による燃料チップ材の大量輸入計画の影響について伺う。
答 県森林組合連合会を軸に県内産を中心に広域的な供給を図る。

公共用地、施設の利用について

問 鹿峠地区、小中学校の跡地の今後の利用について伺う。
答 利活用の可能性を検討したい。

